



①畑で収穫したニラを、食べるラー油に調理②田植えや苗箱洗いを体験した生徒たち③みやぎの明治村を巡りながら歴史を学習④最初は恐る恐るヤギのお世話⑤夕飯の支度をみんなでお手伝い⑥生徒たちを見送った受入農家の皆さん

「いつもの登米市」を体験してほしい

自然に恵まれた農山漁村を訪れ、地元住民らと交流しながら農作業などを体験する「グリーン・ツーリズム」。

農家民泊を軸に国内外からの旅行者を受け入れている「登米市グリーン・ツーリズム推進協議会」の取り組みを紹介します。

農村の日常を体験できるグリーン・ツーリズム

グリーン・ツーリズムとは、農村地域を舞台として、自然・文化・人との触れ合いを楽しむことを目的とした観光形態。ただ宿泊するだけでなく、その地域に残る自然や文化を体験できることが特徴です。

登米市グリーン・ツーリズム推進協議会の発足は登米市が誕生した2005年。農家民泊を中心に据えた体験事業を積極的に推進しています。合併前に各町域で実施していた農業体験希望者の受け入れ事業を引き継ぎ、登米市の特徴を生かしたさまざまなプログラムを実施。中高生を対象に、農家に宿泊して農村の暮らしを体験できる「農家民泊」と、日帰りで登米市の自然や歴史を学ぶことができる「体験学習」などの体験メニューを用意しています。

4年ぶりに農泊を再開 193人を受け入れ

新型コロナウイルスの影響により中止していた協議会主催の農家民泊事業。今年、4年ぶりに受け入れを再開しました。

5月10、11日に塩竈市立第三中学校(受入生徒57人、受入

農家15戸)、18、19日に岩沼市立岩沼中学校(受入生徒96人、受入農家21戸)、26、27日には台湾からの中高生(受入生徒40人、受入農家10戸)が農家民泊しました。各家庭で、田植えや野菜の収穫、家畜の世話などの農作業、郷土料理づくりや歴史学習などを体験。農家との交流を通して、農村地域での暮らしを学びました。

地域の魅力を世界へ 国際グリーン・ツーリズム

市では、海外の学生を受け入れる国際交流の取り組みも推進しています。

外国からの観光客の中には、観光地を巡るだけではなく、日本の農村地域での滞在や、住民との交流を求める人がいます。国際グリーン・ツーリズムは、多くの国に地域の魅力を知ってもらえる機会であり、インバウンド(訪日外国人旅行)による経済効果、地域活性化も期待できます。

協議会では、これまで台湾や中国、カナダなどから多くの学生の訪問を受け入れてきました。今後、国境を越えた交流事業は増加していくことが予測されることから、より一層、事業内容を充実させていきたいと考えています。

台湾と日本のさらなる交友を

(左) 葉家宏さん (嘉華中3年)
(右) 黄亭掄さん (瀛海高2年)



海外から見ると、日本人は真面目でかたくならしいという印象を持っています。でも、実際に接してみると、皆さん優しく親切で、すぐに交流を深めることができました。また、登米市は道にごみがなく、とてもきれいなことに驚きました。車の運転も安全で、私たちは安心して歩くことができました。

日本の家庭生活や文化を学ぶことができた今回の貴重な特別な体験を、家族や友達、多くの人に伝え、シェアしていきたいです。これから、多くの外国人が登米市を訪れると思いますので、共通語でのコミュニケーションができるようになると良いと感じました。

農業を通じて食の大切さを実感

毛糠 ゆりあさん (塩竈市立第三中2年)



私たちは、お世話になった中田町の小野寺さんの自宅で、トマトを支柱に固定する作業やアスパラガスの収穫などをしました。野菜を傷つけないように作業するのはとても難しく、農家の皆さんのすごさを実感しました。作業後には、収穫したアスパラガスを使った肉巻きを作って食べました。テーブルを囲んでみんなで食べたご飯はとてもおいしくて、あの味は私の記憶に残り続けると思います。

今回の農業体験を通して、米や野菜に対する感謝の気持ちが一層強くなり、残さずに食べようと思うようになりました。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。